

原子力産業セミナー2017 報告

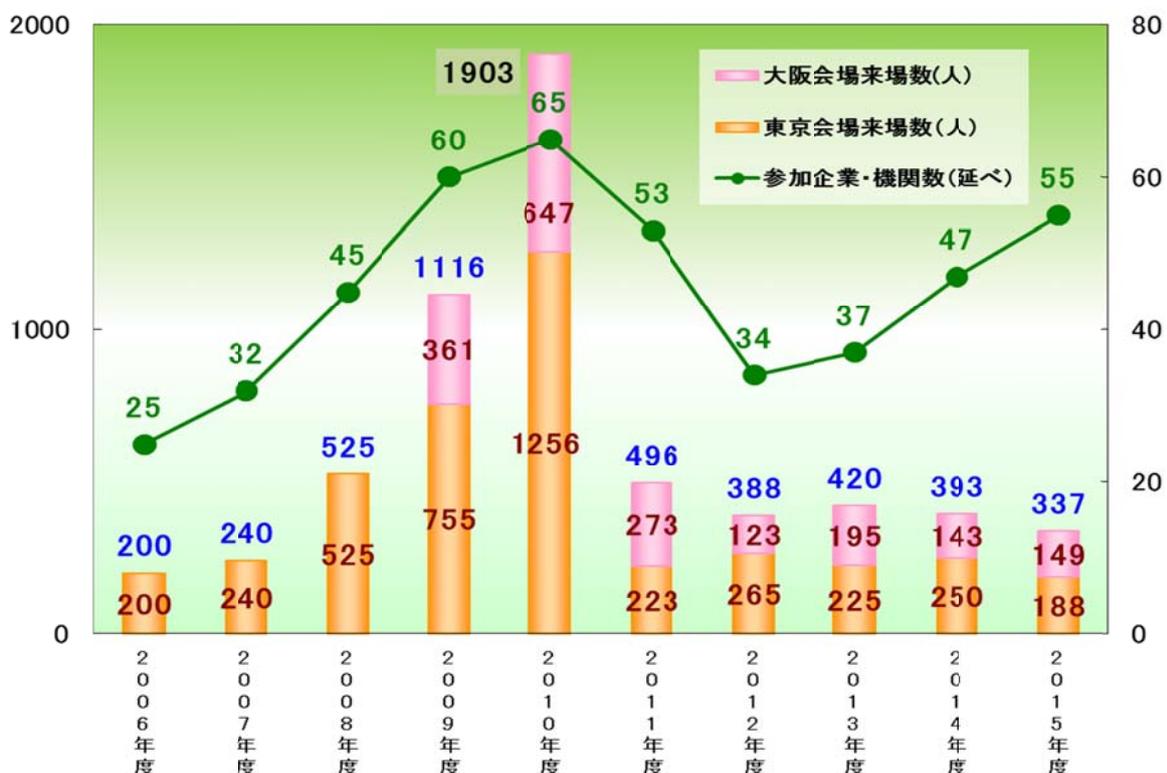
日本原子力産業協会および関西原子力懇談会は、2017年卒の大学生(3年生)・大学院生(修士1年生)及び高専生を主対象に、10回目となる合同企業説明会「原子力産業セミナー2017」を開催した。本セミナーは、原子力産業に関わる企業・機関の採用活動と学生の原子力産業への就職の支援、および原子力産業への理解促進・情報提供を目的としている。

1. 概要

()内の数字は昨年度のもの

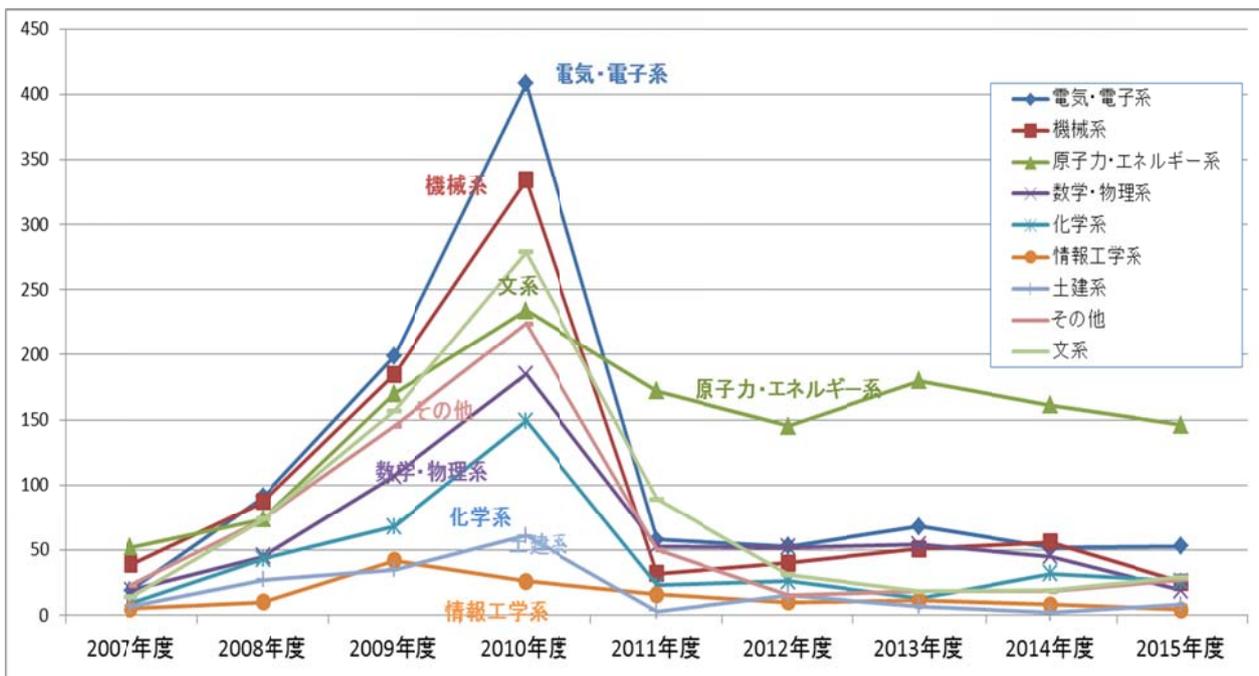
	東京会場	大阪会場	
開催日	2016年3月13日(日)	2016年3月20日(日)	
開催場所	新宿エルタワー サンスカイルーム	新梅田研修センター 新館・本館Lホール	合計
来場学生数	188人(250人)	149人(143人)	337人(393人)
参加企業・ 機関数	31社(26社)	24社(21社)	55社(47社)

原子力産業セミナーの来場数および参加企業・機関数の推移



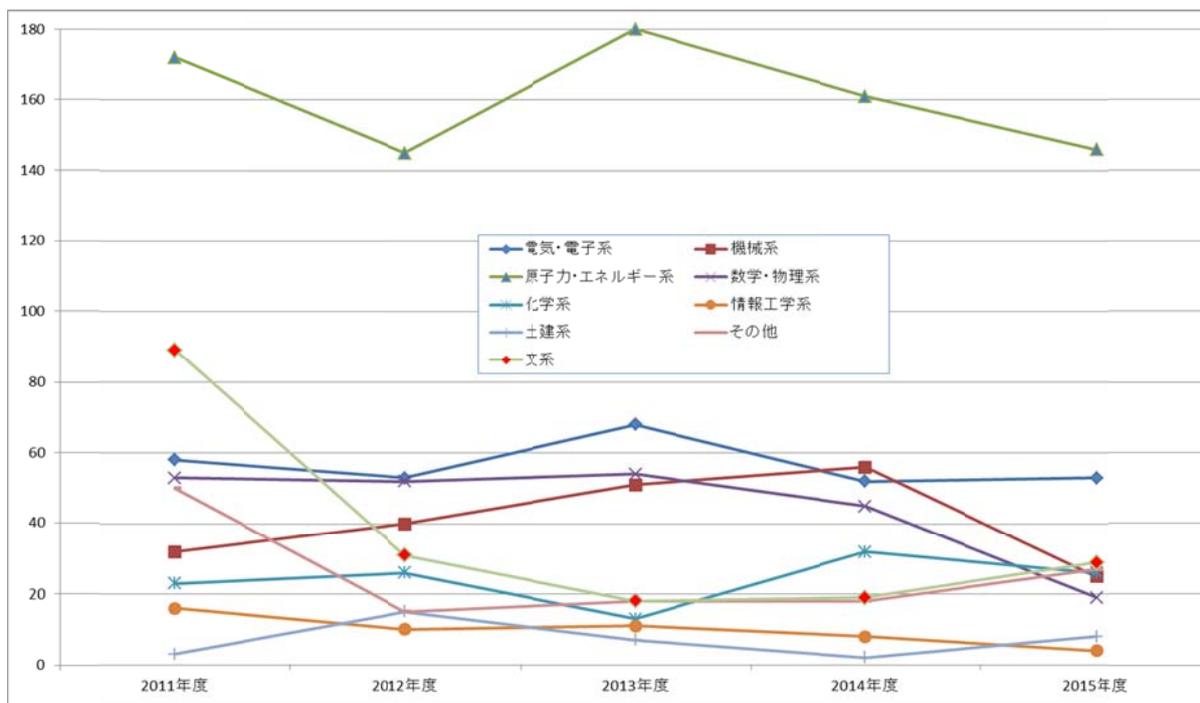
(大阪では2009年度より原子力産業セミナーを開催)

来場学生の学科別人数の経年変化
(東京会場+大阪会場)



来場学生は、一昨年度の 393 名（東京 250、大阪 143）から、昨年度は 337 名（東京 188、大阪 149）へ減少した。来場学生の学科別では、多い順に①原子力工学系②電気・電子系③文系④化学系⑤機械系となっている。原子力・エネルギー系の学生の来場者数は微減、機械系も減少した。一方、文系学生は昨年と比べて増加した。

(参考) 第 6 回～第 10 回の来場学生の専攻の推移 (東京+大阪)



参加企業・機関一覧

参加企業は延べ 55 社（東京 31、大阪 24）、一昨年度の 47 社から大幅に伸び、2010 年度以来の数となった。これは企業の強い人材採用ニーズを反映したものと考えられる。

電力関連企業(五十音順)		東京会場	大阪会場
1	関西電力株式会社	○	○
2	中部電力株式会社	○	○
3	中国電力株式会社		○
4	J-POWER 電源開発株式会社	○	○
5	東京電力株式会社	○	○
6	日本原子力発電株式会社	○	
7	日本原燃株式会社	○	○
8	北陸電力株式会社	○	○
重電メーカー(五十音順)		東京会場	大阪会場
9	株式会社 I H I	○	○
10	株式会社 東芝	○	
11	株式会社 日立製作所 (日立GEニュークリア・エナジー株式会社)	○	○
12	三菱重工業株式会社	○	○
プラント・エンジニアリング企業等(五十音順)		東京会場	大阪会場
13	株式会社 アトックス	○	○
14	MHIニュークリアシステムズ・ソリューションエンジニアリング株式会社	○	
15	関電プラント株式会社		○
16	株式会社 クリハラント	○	○
17	原子燃料工業株式会社		○
18	原燃輸送株式会社	○	
19	株式会社 コーガアイソトープ*		○
20	新日本空調株式会社	○	
21	株式会社 千代田テクノ	○	○
22	中電プラント株式会社 *	○	○
23	株式会社 テプコシステムズ	○	○
24	東芝プラントシステム株式会社	○	
25	株式会社 東京エネシス	○	
26	東京パワーテクノロジー株式会社	○	
27	東電設計株式会社	○	
28	株式会社 日本環境調査研究所	○	○
29	日本原子力防護システム株式会社 *	○	○
30	日本メジフィジックス株式会社	○	
31	株式会社 BWR 運転訓練センター	○	
32	H i t z 日立造船株式会社		○
33	株式会社 日立プラントコンストラクション	○	
公益・独立行政・研究法人(五十音順)		東京会場	大阪会場
34	原子力規制委員会原子力規制庁	○	○
35	原子力発電環境整備機構	○	○
36	国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構	○	○

*は初出展の企業

2. 今回の評価と今後の方向性

① 評価

原産セミナーへの参加企業・機関数は引き続き増加して 55 社となり、事故後の 2011 年度以来、最高の出展者数となった。企業における特に理系の採用ニーズは高まっていると考えられる。

一方、来場学生数は一昨年度の 393 名（東京 250、大阪 143）から、337 名（東京 188、大阪 149）へ 56 名減少した。東京会場は 250 名から 188 名へ 62 名減少したが、大阪会場は 143 名から 149 名へ 6 名増加した。

参加大学・高専数は昨年より 7 校多い 99 校となった。東京会場には 65 校が参加（昨年+5 校）、大阪会場には 34 校が参加（昨年+2 校）した。

参加者数は、大震災後の 2011 年度以来、減少傾向が続いている。特にここ 3 年間ほどは、就職状況の大幅な改善に加え、インターンシップの普及、学校推薦制度の普及と人数増など、就職方法の多様化が原因とも考えられる。

東京会場・大阪会場とも、企業・機関からの採用ニーズの高い「機械、電気、化学系」学生の来場者数は依然として少ない状況（電気と化学はほぼ横ばい、機械は減）。一方、文系学生の来場者数は増加した。

② 今後の方向性

原子力産業界が持続的に良質かつ必要な数の人材を確保していくためには、原子力産業セミナーだけでなく、新たに以下のような多面的な人材確保策を打っていく必要がある。

- ・ 会員企業のインターンシップを支援する取り組み（インターンシップ・セミナー等）
- ・ 大学において、原子力産業の認知度を上げ、魅力を知ってもらうための取り組み（学内セミナー、講演会、サイエンスカフェ等）
- ・ 原子力工学科・専攻科のある大学では、原子力教官と協力して、他の理系学科・専攻科に原子力産業を紹介する取り組み
- ・ 東京・大阪以外の地域における人材ニーズに応える取り組み（地域セミナー等）
- ・ 新卒のみならず、第二新卒・既卒者へも採用の機会を広げる取り組み

これらの方策を通じて、原子力産業セミナーへの来場者も増やせるのではないかと考えられる。また、セミナー会場まで学生に足を運んでもらうためには、原子力産業界が若者に将来の展望、やりがい、魅力などを効果的に発信していくことが重要と考えられる。

3. 原産セミナーの実施内容

① 学生へのプロモーション

早い段階で原子力産業を認知してもらうとともに、働く場としての魅力やあらゆる分野の若者が活躍できるフィールドが広がっていることなどを伝えるために、大手就職情報会社である（株）マイナビと連携し、プロモーションを展開した。

若手技術者・研究者インタビューのWEB動画（マイナビTV）（*1）の配信、原子力産業の理解活動を行った。3月以降は、就職情報サイトの「マイナビ2017」に原子力産業の研究コンテンツ「原子力産業特集」（*2）の掲載、マイナビより理系学生向け来場促進のダイレクトメール（葉書）送付や就職情報誌へのチラシの同封、大学就職課へのポスター（*3）送付、当協会と関西原子力懇談会からは、関係のある大学教官や関係者に対し、学生への告知依頼などの活動を行った。



（*1）マイナビ TV で若手技術者が経験を語る



（*2）マイナビサイトに「原子力産業特集」を掲載



（*3）原子力産業セミナー2017 のポスター

②原子力産業セミナー当日（東京、大阪）

原子力産業セミナーの当日は、各企業・機関による採用活動ブースの出展、展示コーナー（ポスター展示、資料配布など）、コミュニケーション・エリア（参加企業と学生の個別対話の場）を設置した。



採用活動ブースエリア(東京)



採用活動ブースエリア(大阪)



展示コーナー



コミュニケーション・エリアで学生と対話

4. 後援・協賛

以下の通り、11 団体・機関からの後援・協賛を頂いた。

後援：原子力委員会、文部科学省、経済産業省、原子力人材育成ネットワーク

協賛：国立高等専門学校機構、電気学会、日本化学会、日本機械学会、日本原子力学会、
日本保健物理学会、核物質管理学会・日本支部

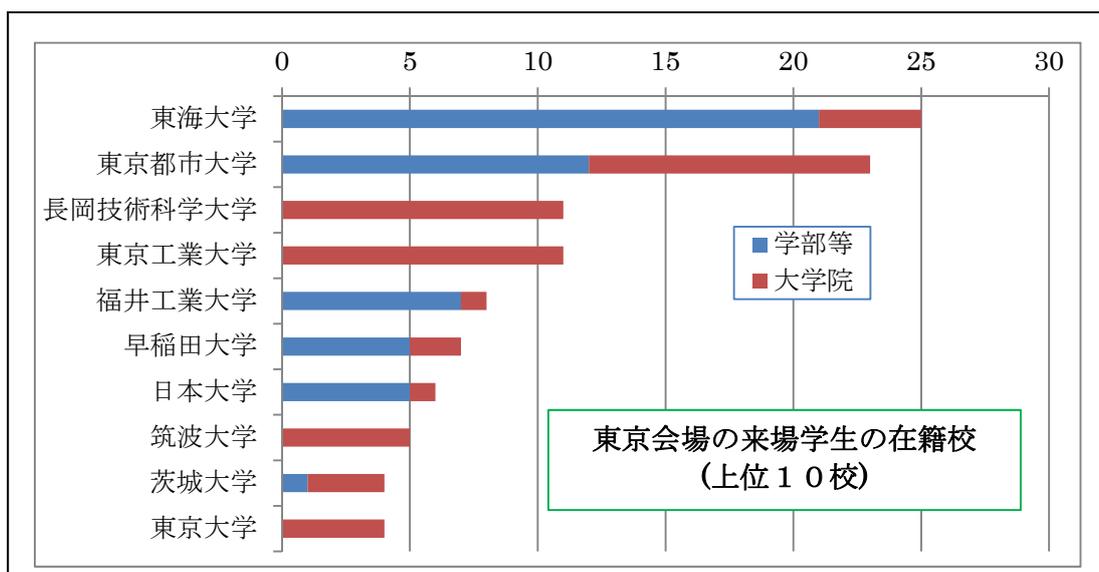
5. (参考) 来場学生データ

以下は、来場学生がセミナー会場へ入場する際に提出する「受付票」の集計結果をまとめたものである。

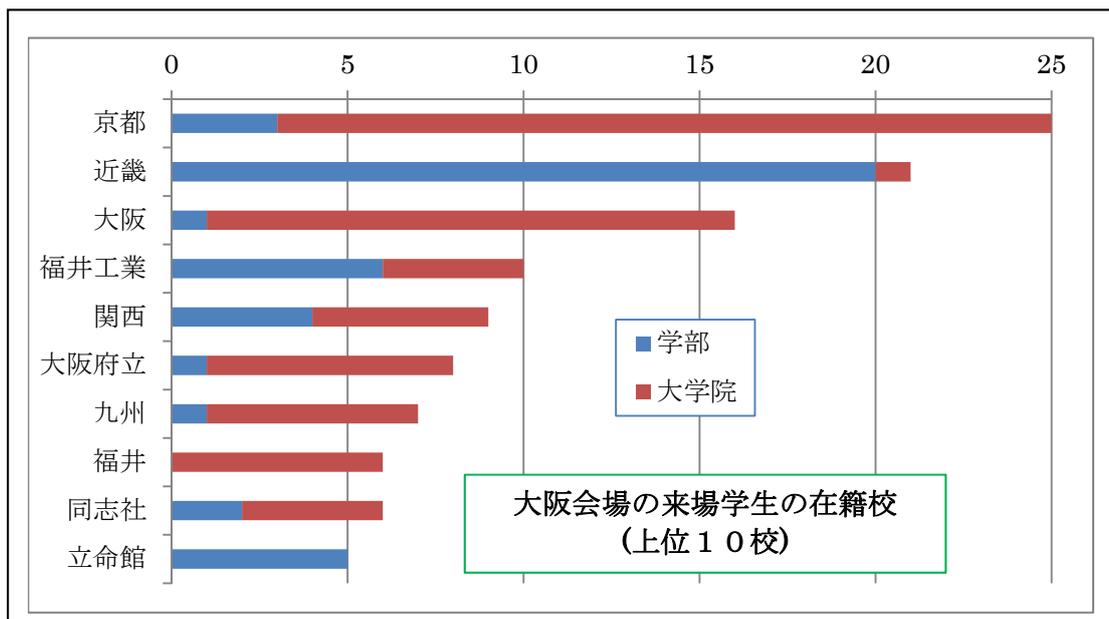
① 大学別の来場数

原子力・エネルギー系の学科（専攻科）を有する大学が、大学別来場者数の上位に入っている。これは、原子力関係学科には原子力産業を志望する学生が多いこと、原子力関係学科の指導教官の勧めによって来場する学生が多いことなどが原因と考えられる。

<東京会場> (上位10校)



<大阪会場> (上位10校)



(上位10校以外)

<東京会場>

東京理科大学	4
京都大学	3
法政大学	3
麗澤大学	3
国際情報工科大学校	3
埼玉工業大学	3
信州大学	3
新潟大学	3
富山大学	3
北海道大学	3
一橋大学	2
静岡大学	2
中央大学	2
東京農業大学	2
東洋大学	2
福井大学	2
群馬大学	2
東邦大学	2
愛媛大学	1

大妻女子大学	1
豊田工業大学	1
松山大学	1
琉球大学	1
学習院大学	1
近畿大学	1
金沢大学	1
九州大学	1
慶應義塾大学	1
香川高専	1
国学院大学	1
埼玉大学	1
産業技術大学	1
鹿児島高専	1
芝浦工業大学	1
首都大学東京	1
松江高専	1
上智大学	1
神奈川大学	1

諏訪東京理科大学	1
千葉職業能力	1
台湾国立清華大学	1
拓殖大学	1
東京経済大学	1
東京電機大学	1
東京農工大学	1
東北大学	1
同志社女子大	1
同志社大学	1
福島大学	1
北見工業大学	1
名古屋工業大学	1
名古屋大学	1
明星大学	1
立教大学	1
獨協大学	1

<大阪会場>

名古屋大学	4
早稲田大学	3
奈良先端科学技術大学	3
神戸大学	2
茨城大学	2
広島大学	2
兵庫県立大学	2
富山大学	2
島根大学	1
大分大学	1
大阪産業大学	1
大阪工業大学	1

静岡大学	1
岡山大学	1
龍谷大学	1
山梨大学	1
明治学院大学	1
三重大学	1
福井工業高専	1
長岡技術科学大学	1
東北大学	1
東京都市大学	1
東海大学	1
京都産業大学	1

②所属（学部・大学院の割合）

東京会場は学部と大学院がほぼ同数だが、大阪会場は学部が6割と、学部生が多くなっている。また今回は、東京会場について高専機構と連携・協力したため、東京会場への高専生の来場が例年より多くなっている。



所属	東京会場		大阪会場	
	人数	割合	人数	割合
院※	89 (106)	47.3% (42.4%)	55 (104)	36.9% (72.7%)
学部	92 (143)	48.9% (57.2%)	92 (37)	61.7% (25.9%)
短期大学	1 (1)	0.5% (0.4%)	0 (1)	0% (0.7%)
専門学校	0 (0)	0% (0%)	0 (0)	0% (0%)
高専	6 (0)	3.2% (0%)	2 (1)	1.3% (0.7%)
合計	188 (250)	100% (100%)	149 (143)	100% (100%)

* 大学院はマスター、ドクターを合算
四捨五入の関係上、合計が100%にならない場合がある
()内の数字は、昨年度

③文系・理系の割合

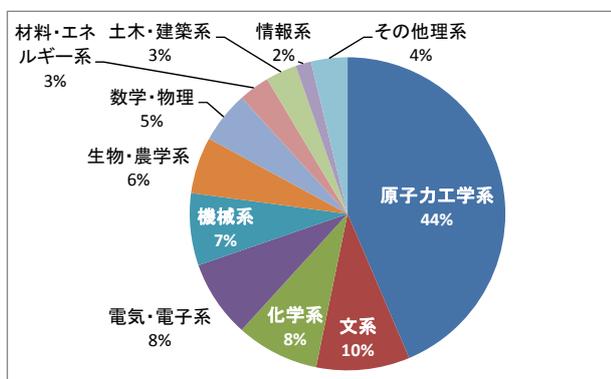
昨年度とくらべると、来場者の文系の人数・割合が大きく伸びた。文系の参加者数・割合は、一般学生の原子力産業の認知度を示すものとして注目している。文系の採用も行っている展示各社・機関は、文系向けの企業説明等も充実させて頂く必要がある。



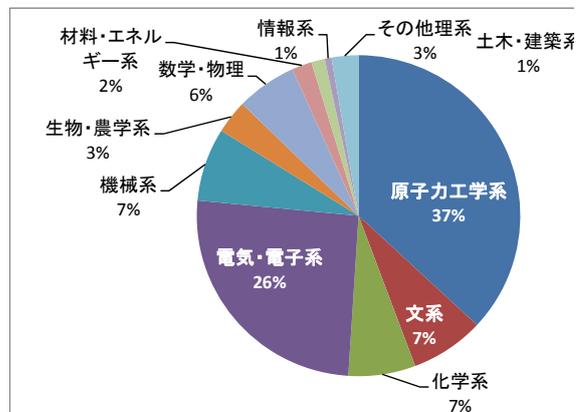
来場者合計	東京会場		大阪会場	
	人数	割合	人数	割合
文系	18 (15)	9.6% (6.0%)	11 (4)	7.4% (2.8%)
理系	170 (235)	90.4% (94.0%)	138 (139)	92.6% (97.2%)
合計	188 (250)	100%	149 (143)	100%

④ 来場学生の学科別割合

東京会場



大阪会場



分野	東京会場		大阪会場	
	人数	%	人数	%
原子力工学系	82	44%	55	37%
文系	18	10%	11	7%
化学系	16	8%	10	7%
電気・電子系	15	8%	38	26%
機械系	14	7%	11	7%
生物・農学系	11	6%	5	3%
数学・物理	10	5%	9	6%
材料・エネルギー系	6	3%	3	2%
土木・建築系	6	3%	2	1%
情報系	3	2%	1	1%
その他理系	7	4%	4	3%

参考資料

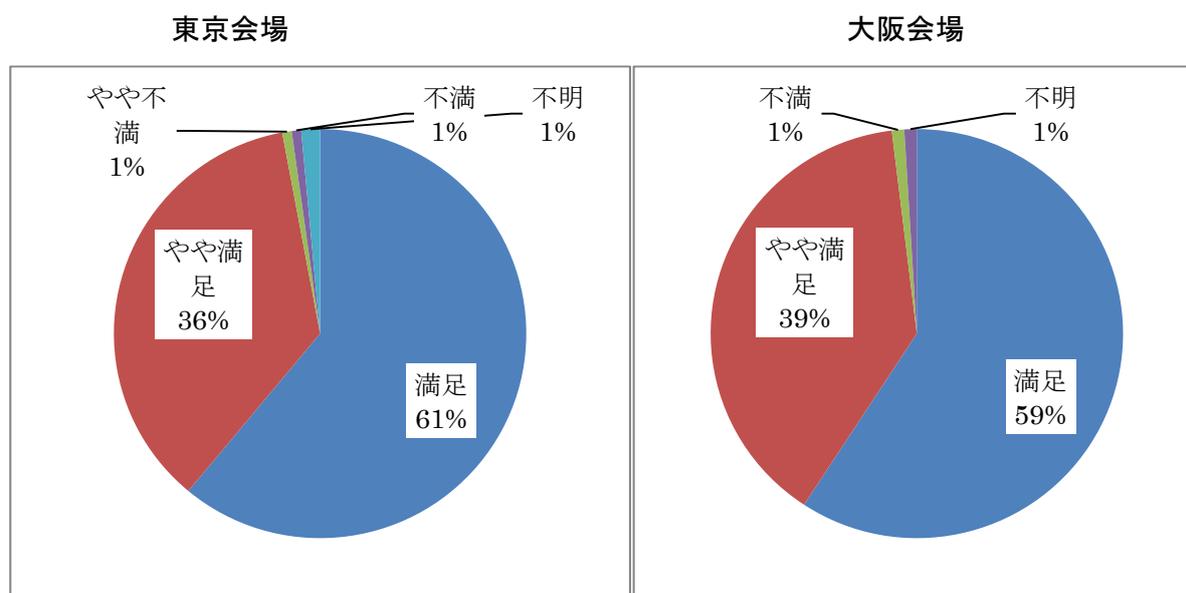
参考 1. 来場学生アンケートの抜粋（満足度、理解度、来場経緯、学生の感想）

参考 2. 出展企業の感想

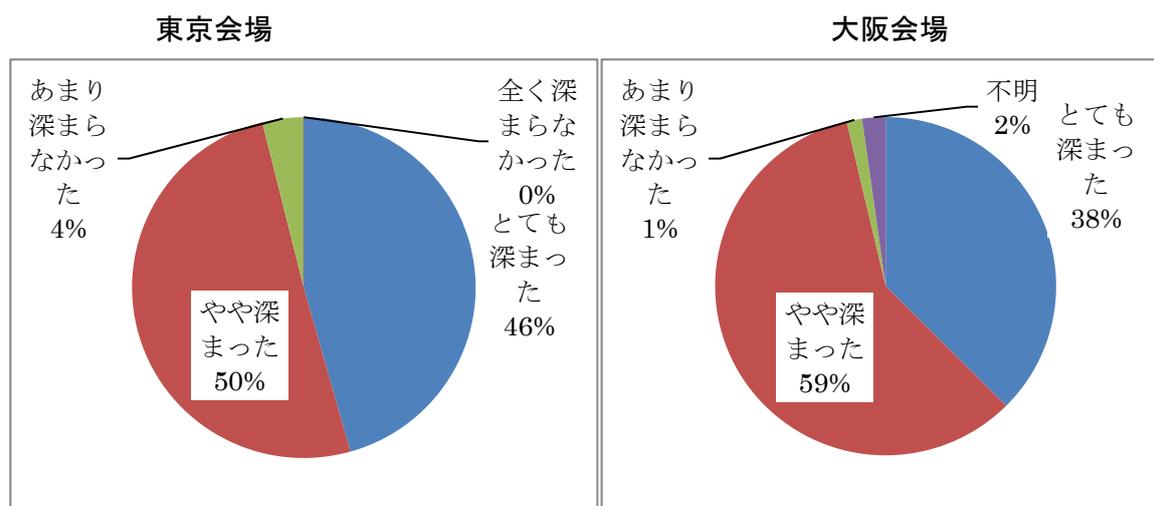
参考 1. 来場学生アンケートの抜粋（満足度、理解度、来場経緯、学生の感想）

入場時に学生が提出するエントリーシートとは別に、当協会は独自にアンケートを実施している。アンケートの提出は任意だが、回収率は、東京会場で 72 %、大阪会場で 69%と、比較的良好であった。

○来場学生の満足度

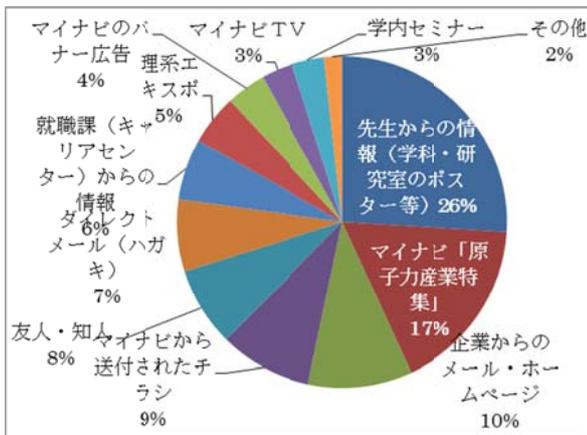


○原子力産業界への理解は深まったか

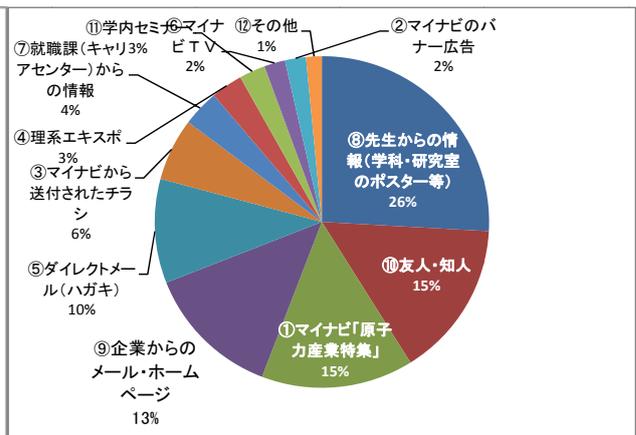


○来場経緯（原産セミナーを何で知ったか）

東京会場



大阪会場



来場の理由は、「先生からの情報（学科・研究室のポスター等）」が東京・大阪とも最多であり、このことから大学教員とのコンタクト密度を増やしていく重要性が伺える。

○参加学生の主な感想

（東京会場）

- ・企業研究に役立つことばかりで、とても有意義な時間だった。
- ・理系の方が多いため、理系の方向けの説明がどうしても多くなってしまいがちだが、文系の人もいたので、文系向け説明が必要。
- ・もう少し日数をふやしてほしい。もう少し時間がほしかった。日数を増やしてでもたくさん企業の見てまわってみたいかった。（多数の意見あり）

（大阪会場）

- ・大規模な合同説明会よりも少人数で話を聞くことができよかった。
- ・もう少しブースが広いほうがよかった。
- ・開催会場か開催日・開催時間を増やしていただけると参加しやすかったと思う。もっとたくさんブースを回ってみたいかった。
- ・福岡でも開いてほしい。（複数意見）
- ・できればもっと早めに開催して頂きたい。

参考 2. 出展企業・団体の主な感想

（東京会場）

- ・関心度の高めな、しっかりと勉強されている学生が多いと思った。
- ・熱心に聞く学生が多かった。
- ・社会貢献度の高い仕事に興味強い学生が多いと感じた。

（大阪会場）

- ・狭い会場に取材プレスが多すぎるので、取材方法に工夫を。
- ・関心の高い学生が多く、皆熱心である。
- ・東京会場の様に、広く1つの会場で実施する方が良いと思う。

以上